

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成22年 7月 5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791700020		
法人名	有限会社フレンド		
事業所名	グループホームフレンド天王寺		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市天王寺区味原町15番11号		
自己評価作成日	平成22年5月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各線、鶴橋駅より徒歩3分と好立地な場所にあり、ご家族様に訪問していただきやすいグループホームです。
 当グループホームでは住まう方の安全と安心を支える環境を第一に考え、穏やかな生活を送っていただきます。
 忘れる事や出来ない事が増えても、ゆったりと楽しくありのまま残された力で自分らしく生活できる様、スタッフが真心をこめてお手伝いします。」

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成22年6月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホームフレンド天王寺」はJR環状線、近鉄大阪線、地下鉄千日前線の各鶴橋駅から、徒歩3分の交通至便の商業地の中にあり、小規模多機能居宅介護事業所を併設する事業所である。周囲には商店、病院、マンション、ホテル等が立ち並んでいる。事業所は3階建て建物の2階と3階にあり、建物のすぐ側を電車が走っているが、防音対策が施されており騒音は気にならない。管理者は利用者や家族が意見を表しやすいように詳細な内容のヒヤリングシートを用いて意見等を聴取している。職員に対しては業務時間内や時間外を利用し意見や提案を聞く場面作りを行い、運営に反映させる努力をしている。職員は一人ひとりに寄り添いながら、「利用者が地域の中でその人らしく、穏やかな生活」が送れるように個別支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊敬のある生活「地域の中で、その人がその人らしく暮らす」を理念としている。その人らしい生活、暮らしを支える意味をよく話し合い、現場で生かされるように取り組んでいる。	理念は来訪者の目にも触れやすいように、1階玄関ホールに掲示している。毎朝のミーティングでも読み上げ、職員が理念を理解し実践に結び付けられるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はないが、今後、地域の老人会や町内の行事には参加しようと思っている。	事業所がある地域は商業地域で一般住宅は少なく、町会や老人会はあるものの活動は低調である。しかし、町会の行事には誘いをいただき参加したいと思うものの、利用者の身体状況などにより参加に至っていない。	利用者の散歩の際には近隣の住民と挨拶を交わしたり、町会の行事には参加可能な利用者だけでも参加するなど、積極的な地域との交流を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そういった取り組みがないので、今後は例えば、散歩中に地域の子供の見守り隊として見守り役などの事をしていきたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模と共同で開催している。会議は地域の代表、地域包括支援センターの代表、入居者及び家族代表を外部メンバーとして現況報告を行い、意見交換を行っている。	運営推進会議は2か月に1度開催している。家族代表、地域代表には会議への参加の呼びかけを行なっているが、なかなか参加いただけていない。会議では積極的な意見交換は少なく、事業所からの報告に留まっていることが多い。	様々な立場の方々に参加いただき、活発、具体的な意見の交換が望まれる。家族、地域の代表に対しては根気強く会議への参加を働きかけ双方向的な会議となるよう期待される。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	行き来する事はないが、電話でのやり取りでサービスの質の向上に取り組んでいる。今後は、行き来する機会をつくり、市町村とのつながりを密にし、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。	天王寺区にはグループホームが当事業所のみということもあり、運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加しているが、これまで運営推進会議以外で市と関わることが少なく、必要な時は電話で情報交換を行っている。	運営推進会議以外にも、行き来する機会を積極的につくり、市と共にサービスの質の向上に取り組む事が望まれる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	どのような状態におかれている利用者であったとしても、身体拘束をしなくていい方法を考え、その都度スタッフで話し合い検討し実践に努めている。	身体拘束の弊害等について職員は理解しており、徘徊探知マット等を利用して身体拘束をしないケアに努めているが、利用者の状態によってはやむを得ず必要最小限度の身体拘束を行う場合もあり、その場合は家族、医師を交え会議をおこなっている。1階の玄関は常時施錠している。各フロアのエレベーターは行政の指導により利用者には操作できないように変更している。	身体拘束をしないケアについて管理者、職員が共通認識を持てるように内部研修の実施が望まれる。また、職員の意見交換や見守りの工夫等により、身体拘束のないケアの実践への取り組みを期待したい。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法について学ぶ研修等は、現在行っていないが、入居者の身体の確認、家族と入居者の関係についてタイムリーな把握に努めている。今後、研修等の時間をとり、法について学ぶ機会を作り、取り組んでいきたい。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>簡単な資料をおいている。学ぶ機会や支援までは行っていない。大切な事なので、勉強会に取り入れ、詳しく学び支援していきたい。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族に分かりやすく説明し、疑問点についても、契約時だけでなく、その後においても聞いていただける様、柔軟に対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情対応職員を設置し、意見を聞く機会を設け、スムーズに対応できる様にしている。意見箱の設置もしている。</p>	<p>相談や苦情に対応する職員がいる、意見箱も設置されている。ヒアリングシートを用いたりし、日頃から家族等からの意見等を聴取している。意見箱にはたまに意見が入っているが普段から家族の面会も多く、面会時に直接要望や意見を出されることも多い、出された意見は運営等に反映されている。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングで意見を聞く機会を設け、反映できる様取り組んでいる。</p>	<p>管理者は日頃からミーティング等で職員の意見を聞き取る努力をするとともに、食事会等で自由な雰囲気の中で意見を出しやすい配慮をしている。提言された意見を業務の改善や向上に反映している。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>共通した知識をもち、評価をもって向上心がもてるよう働きかけている。職員には定期的に日常の悩みや意見を聞く機会を設けている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な取組み（研修や指導）を行っているが、未だ発展途上なところが多い</p>	

14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>天王寺区ではグループホームがほかになく、同業者との交流はない。時間が許せば、大阪市のグループホーム連絡会に参加したい。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接を必ず行い、本人とも話す時間を作っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族との話合いを持つ場を大切にしている。いつでも相談に対応できるよう心がけている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>してほしい事や訴えたい事をいち早く見つける様努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>スタッフは人生の先輩という尊敬の気持ちで接し、その場その場の会話を大切にし、昔に経験された事や調理の工夫等を学び支えあっている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と話し合い、笑い、共に支えあう関係を築いている。そうしていく上で家族からの本音が聞こえる。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会に制限せず、友人の方の面会など可能な限り受け入れてる。	家族、知人の面会も可能な限り受け入れ利用者のこれまでの馴染みの人との関係が継続できるように支援している。また利用者に送られたきた友人からの葉書には返事を出すことを勧めたり、家族、知人が訪問し易い雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ぼっちという場は作らず、仲間がたくさんいるという安心感をもってもらい、入居者同士が関われる場を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らないよう、どんな時でも相談していただける関係をつくっている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思っている事に希望や意思表示が困難な場合は、意思が確認できるよう工夫する。本人本位になるよう前事業所からの情報を大切にしている。	利用者が以前に利用していた事業所とも連絡を取り合うとともに、日頃のコミュニケーションから利用者一人ひとりにあった聞き取りの方法を工夫し、思いや意向の把握に努め、得た情報は職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	生活歴や暮らし方、生活環境などを家族や知人からの聞き取りを行い、これまでの生活歴を大切にできるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	統合的に把握し、柔軟に対応できるように努めている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ガイドライン方式を活用している。作成については、ケアマネだけでなく、スタッフも交えチームで作成している。スタッフが気付いたことを介護計画に反映するようにしている。変化にその都度対応していく為、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。その際は関係者にも意見を聞き新たな計画作成を行っている。</p>	<p>カンファレンスは事業所の呼びかけにより家族も参加して実施している。職員の日頃の関わりの中で利用者の思いを聞き取るにより、より良く暮らすためのケアのあり方を盛り込んだ介護計画となっている。6カ月に1度の定期的な見直しとモニタリングも行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人ケースに日々の記録をとり水分、排せつ、食事摂取量などを記載し、スタッフが情報を共有し、申し送りにも役立て、実践や介護計画に役立っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>不穏時や必要に応じて、デイサービスの空間、物品を利用した支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在は民生委員との支援だけなので、今後積極的に支援していきたい。消防との連携によって、防火知識についての勉強会を予定している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用開始前からのかかりつけ医での受診をしたり、グループホームの協力医とも連携した対応をしている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に受診が出来るように支援している。基本的には家族の同行受診であるが、本人や家族の希望があれば、職員が同行することもある。事業所の協力医による週1回の往診、歯科医の訪問診療、訪問看護などが行われている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護との連携がある為、状況に応じて相談し、日常の健康管理、医療活用の支援に努めている。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の情報交換を密に図り、早期退院への取り組み、グループホームの復帰を協議して取り組んでいる。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向をもとに、家族の意向なども聞き入れ、医療機関を連携し、全員で方針を共有している。	入居時に「終末期に対するアンケート」調査を行い、利用者や家族の意向を把握している。利用者の状態変化に応じて主治医、家族、職員等と話し合いを行い、治療方針、事業所で対応出来ること、家族の考え方を確認しながら方針の共有を図っている。開設以来5人の方を看取っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別対応マニュアルで対応を行うようにしている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、定期的な避難訓練を年間計画に取り組んでいる。	消防署と協力して年2回の避難訓練を実施している。災害対応マニュアル、緊急連絡網を作成し、緊急災害用直通電話を設置している。今年度中にはスプリンクラーを設置予定である。地域との協力体制の構築は今後の課題である。	災害時における地域との協力体制の構築を期待したい。また飲料水をはじめ他の保存食の備蓄も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは入居者に尊敬を込めて言葉遣いで接しており、外来者への対応及び記録類の保管取扱い等、個人情報保護を心がけている。	職員は利用者と同じ目線に立ち、一人ひとりの尊厳とプライバシーを損ねないような言葉使いや対応に努めている。記録類は利用者、家族、訪問者の目に触れないように事務室内で保管し、個人情報保護に留意している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援内容についても、わかりやすく説明をし、同意を得ている。認知症の方でも自己決定できるように情報を収集している。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調・精神面を把握し、その時々の方の意向を尊重し支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>洗面所を設け、鏡をみる事で、身だしなみを心がけてもらえるように努めている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その日のメニューを食堂に掲示し、話題のひとつとしている。準備や片づけはスタッフがしている。準備や片づけをする事で、日常の生活により近くなるので、出来る範囲で一緒に行っていきたい。</p>	<p>業者から届いた半調理の食材を昼食は1階の厨房で調理して各ユニットに配食している。昼食のご飯と汁は各ユニットで作成、夕食はご飯のみ各ユニットで調理している。食事の準備や後片付け等はすべて職員が行っている。職員は利用者と同じ食事をしながら、さり気なく介助している。利用者は家族と外食に出かけたり、外出を兼ねてデパートで好きな物を購入してこられることもある。</p>	<p>利用者の出来る範囲の力と希望等に合わせ、食事の準備や片付け、盛り付け等に参加し家庭的な日常生活に近い生活の場を提供していくことが望まれる。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取量、栄養バランスを1日全体を通して把握している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔内の清潔保持を日常的に支援している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>声かけや、誘導により排泄の失敗やオムツの使用を減らせるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。個々の状況に応じて尿取りパットやリハビリパンツを使用しながら、出来るだけトイレ誘導を心掛けるなど個別支援にも努力している。</p>	

44		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄の状態を把握する為、排泄チェック表に記録している。また、必要に応じて家族や医療機関への報告を行い、指示に従い水分補給等の対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人ひとりの希望にあわせ、気持ちよく入浴できるように支援している。	午後の時間帯であるが利用者一人ひとりの希望に合わせて週2回の入浴が出来るように配慮している。希望すれば朝でも、夜間でも入浴出来ている。。お風呂の好きな人は1日に3~4回も入浴している。また家族の協力を得ても入浴を拒否する方には無理強いせず本人が入る気になる迄待つ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日のリズムづくりを通した安眠薬をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者の一人ひとりが医師の指示どおり服薬できるよう支援し症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(洗濯たたみ、食器洗い、モップかけ、新聞取り)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの公園や神社等に出かけ、季節の変化を感じてもらったり、近くのスーパーなどにも出かけている。	天気のよい日には近くの公園や神社に出かけて、季節の変化を感じたり、気分転換を図れるように努めている。また、近隣のデパートやスーパーマーケットに好物を買いに出かけるなど個別支援にも対応している。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な買い物の代行や同行で、実際にお金を使う事の提供を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙の代筆やポストへの投函を行い、友人への電話をつないだりと支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>心地よく過ごせるように、採光や騒音に配慮し家庭的な雰囲気作りを心がけている。1F玄関には、観葉植物を置き雰囲気作りにも心がけている。</p>	<p>1階玄関やユニットの入り口には鉢植の観葉植物が置かれている。2階・3階の窓外は頻りに電車が通り過ぎているが、防音ガラスで騒音対策は取られている。居間は明るく、ソファやテーブル、テレビ等がほどよく配置されて寛げる空間になっている。行事の記念写真や季節の切絵や折り紙細工を飾って家庭的な雰囲気作りにも努めている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやテーブルを置き、好きな場所で過ごせるよう配慮している。時には、生花や鉢植えなどを置き居心地よく過ごせるよう心がけている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者一人ひとりに合わせた居室の環境作り、居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品などが持ち込まれ安心して過ごせる場所になっている。</p>	<p>利用者の好みでベッドか和床を選び、窓にも好きな色のカーテンを掛けてその人らしい居室となっている。姿見、縫ぐるみ、衣類など使い慣れた馴染みの品物に囲まれて居心地よく過ごせるように配慮している。各室に備え付けの白いロックスカータンスは清潔感とすっきり感を与えている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、滑り止めや要所への手すりの設置、福祉用具の利用により、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。各居室の入口に表札をあげ、自分の居室がわかりやすいよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない